

令和5年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

**令和5年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	182	62	43	37	6.3	14.5	8.7
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	182	55.2	52.9	49.6	43.9	47.2	13.9	3.8	13.9	8.9	9.4
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2 年	学校	183	62.5	47.2	45.3	33.1	45.2	10.5	4.0	13.6	13.2	12.2
	大阪市	—	66.7	54.6	52.2	39.8	57.2	8.2	3.2	11.2	11.1	8.6
	大阪府	—	66.8	54.2	52.2	40.3	57.1	8.3	3.5	12.0	11.8	8.9
1 年	学校	157	53.4	45.8	47.1	63.0	57.9	9.1	5.6	11.0	0.9	5.3
	大阪市	—	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	8.7	1.9	4.3
	大阪府	—	60.8	—	54.7	—	64.1	9.6	—	9.6	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年	生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
実施月日					
3 年	学校	182	89.8	91.3	108.1
	大阪市	—	101.3	107.7	137.9
					102.2

調査結果から

【成果と課題】

○大阪市英語力調査(GTEC)結果

本校のCEFR A1レベル相当以上の中学3年生の割合は38. 1%で、大阪市の平均54. 3%を16. 2ポイント下回っている。

各観点別のトータルスコアでは

<読むこと【リーディング】>

全体の平均スコアでは市平均101. 3に対し本校は89. 8ポイントとなり、11. 5ポイント下回っている。

CEFR-JはA1. 2に分布。

<聞くこと【リスニング】>

全体の平均スコアでは市平均107. 7に対し本校は91. 3ポイントとなり、16. 4ポイント下回っている。

CEFR-JはA1. 2に分布。

<書くこと【ライティング】>

全体の平均スコアでは市平均137. 9に対し本校は108. 1ポイントとなり、29. 8ポイント下回っている。

CEFR-JはA1. 2に分布。

<話すこと【スピーキング】>

全体の平均スコアでは市平均102. 2に対し本校は81. 2ポイントとなり、21. 0ポイント下回っている。

CEFR-JはA1. 1に分布。

【今後に向けて】

<GTECの結果を受けての感想、分析、自校の課題等>

全体的には、よくがんばって取り組んでいると思う。間違いを恐れず、英語で表現することにチャレンジする姿勢は多くみられるようになってきた。どの技能においても少しずつできることができてきている。より正確に、自分の思いを英語で伝えられるようにするために、語彙を増やすことと、スピーキングの機会を多く持つことと、多くの英語を聞く機会を増やしていくことが必要だと思う。

<読むこと【リーディング】>

意味のある文脈の中で語彙を捉えることを中心に授業に取り組んできた。意味のまとまりごとに区切りながら、英文を前から意味を捉えていくことができるようになってきている。

<聞くこと【リスニング】>

概要を捉えることとそれを英語で表現することを意識して授業に取り組んだ。必要な情報を聞き取る力はある程度ついてきていると思われる。

<書くこと【ライティング】>

自分の考えを英語で表現する時に、文法的な間違いを恐れずに、習得した語彙を使って書くということを意識した活動をしてきた。短い文章ながら、英語を使って表現できるようになってきている生徒は増えている。

<話すこと【スピーキング】>

質問を正確に捉え、英語で応答することを意識した活動を授業の中に取り入れてきた。いくつかの単語で答えることはできるようになってきているが、完全な文で答えなければならないという意識が強く、自信をもって間違いを恐れずに応答することがなかなかできていない。